

# いごいのみぎわ

## 天路歷程 ジョン・パニヤン

### 第42話

2022年9月4日～9月10日 各家庭でのディボーション用テキスト

さて、再び夜となつて、巨人と妻とが寝についたとき、彼女は囚人たちのことを尋ね、彼の勧めに従ったかどうかと聞いた。それに答えて彼は言った。やつらは不敵な曲者で、自害するくらいならどんな艱難にも耐えようというのじゃ。彼女は言った。明日二人を城の庭に引き出して、すでに片付けた連中の骨と頭蓋骨を見せておやりなさい。以前彼らの仲間にしたように、一週間とたたぬうちに、彼らも八裂きにしてしまふと思ひ込ませておやりなさい。

そこで朝となると、巨人は再び彼らの所へ出かけ、城の庭に引き出して、妻の言うとおりの物を二人に見せた。彼は言った。これは、かつてはお前たちのような巡礼者で、お前たちのようにおれの領土に侵入して来たのじゃが、よい折と思うときに八裂きにしてやったのだ。十日以内にお前たちもそうしてやる。行け、穴に下って行け。そう言いながら巨人はそこへ行く道々二人をなぐりつけた。それで二人は、土曜日は終日、以前のようなみじめな状態であつた。さて、夜が来て不信夫人とその夫の巨人が寝につくと、再び囚人の話を始めたが、同時にその老巨人は自分の殴打によつても、勧告によつても、彼らを死なせることができないのは不思議だと思つた。それを聞くと妻は答えて言った、恐らく二人はだれかが救いに来ると望んでいるのか、それとも錠前をこじ開ける道具を身につけていて、それで逃れようと望んでいるのでしょうか。巨人は言った、お前はそう言うのか。それでは朝になったら探してみよう。

さて、土曜日の真夜中ごろ彼らは祈り始めて、ほとんど夜明けまで絶えず祈つた。

ところで夜があける少し前、善き基督者は半ば驚きあきれた者のように、突然熱情こめて話した。私はまあ何というばかりであろう。自由に歩いてよいのに、このような悪臭の胸をつく土牢に横たわつていとは。私は懐に「約束」という鍵を持っている。これは確かに懐疑城のどんな錠でもあけられるであろう。すると有望者は言った。それは吉報です。兄弟よ、懐から取り出して試してごらんなさい。

それから基督者は懐からそれを取り出して土牢の扉に試してみた。すると門は（鍵を回すと）もどり、扉はたやすくさつと開いて、基督者と有望者は二人共外に出た。彼らは城の庭に通ずる外の扉の所へ行って、その扉も鍵で開けた。それから彼は鉄の扉の所へ行った。それも開けなくてはならなかったからである。錠はいまいまいほど固かつたが、それでもその鍵で開いた。それから急いで逃げようとして門を開けたが、門が開くとき大変なきしる音を立てたので、巨人絶望者は目を覚ました。彼は囚人たちを追おうとしてすばやく起きたが、手足がきかなかつた。また発作が起こつたので、どうしても彼らの後を追うことはできなかつた。それから彼らは進んで行くと王の街道に出たので、もう安全であつた。それは彼の管轄外に

出たからである。

さて、木戸を踏み越えると、後から来る人々が巨人絶望者の手に落ちないようにするには、この木戸の所に何をしておいたらよいかと二人で工夫を始めた。そこで意見が一致したことは、そこに柱を立て、その片側に次のような文を彫りつけることであった。「この木戸を越えるところに巨人絶望者の守る懐疑城に通じる道がある。彼は天国の王を軽んじて、聖なる巡礼者たちを滅ぼそうとする者である」。それで後から来た多くの人々は記されてある事を読んで危険をまぬがれた。これがすむと二人は次のように歌った。

道はずれてわれらは知った、  
禁断の地に踏みこむとは何であるかを。  
後から来る者よ、注意せよ、  
軽率のためわれらのような目にあって  
侵入のかどで囚われぬように。  
その城は懐疑城、城主は絶望者。

それからなおも行くと、ついに愉快が岳に来た。この山は以前にも話したことのある丘の主のものであった。こうして彼らは庭園や、果樹や、ぶどう園や、噴泉を見るためにその山に登って行き、その泉で水を飲んだり、体を洗ったり、またぶどう園で思う存分食べたりした。さて、これらの山々の頂上には羊の群れを養う羊飼たちがいて、街道の側に立っていた。それで巡礼者たちは彼らの所へ行き、(疲れた巡礼者たちが路傍で立ちどまってだれかと話す時よくするように、)杖によりかかって尋ねた。この愉快が岳はだれのですか。またそこで草を食べている羊はだれのですか。

**羊飼** この山はインマヌエルの土地で、その都がここから見えます。【ヨハ10:11】  
羊も彼のものです、彼はそのために命を捨てられたのです。

**基督者** これは天の都へ行く道ですか。

**羊飼** あなた方は間違いなくその道におられます。

**基督者** そこまではどのくらいありますか。

**羊飼** 本当にそこに達する人たち以外の者には遠すぎますね。

**基督者** 道は安全ですか、危険ですか。

**羊飼** 安全であるはずの者には安全です。「しかし罪びとはこれにつまずく」でしょう。【ホセ14:9】

**基督者** ここには道中疲れて弱った巡礼者たちに何か慰めになるものがありますか。

**羊飼** この山の主は「旅人をもてなすことを忘れてはならない」と私たちに言いつけられました。【ヘブ13:2】それでこのよいものはあなた方のご自由です。

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい